



## 青空の下、彼岸花が

### 畦道に咲いています



#### 東京にて パート5

指定された日時に日本橋のリコー本社のロビーに着いたのは午前10時。

受付に面会の予約があることを告げて待つこと20分。「こちらにどうぞ」と

受付の可愛い女性社員に声をかけられ、応接室に通されました。

そこに待つておられたのが、頭が半分剥けて、でっぷりとした貫禄十分の私より10歳は上に見える男の方でした。「いや、よく来られました。私がリコー教育機器の大阪支店長の米倉です」と名刺を出されて挨拶。私は「籠谷 弘です。宜しくおねがいします。これが履歴書と身上書です」と少し緊張気味に差し出しましたが、支店長は書類には見るとも見ない

ともなく、私の顔をばかりみておられ「営業畑だけかと思っていたら、いろいろな職業についておられるんですね」と興味深そうに私の顔を見て、履歴書と比べながらニコニコして話かけられました。

私はキャバレーやバーテンダーの職歴はまずかつたのかあと思いました。が、後の祭り。正直に全部書いていました。「はい、思うところがあります」「まあそれは良いとして、当社の商品を全国に販売しているところとしていますが、約10万円の教育機器、売れると思いますか？」いきなり質問です。売れるかどうか現物も説明も聞いていないのに、わかるわけないじゃないと思いつつ「商品が良く、ニーズにあっていれば売れ

るのではないでしょうか」と生意気なことを言ってしまう。「ワハハそれはそうだよ」と豪快に笑う支店長の顔が童顔に見えて、不思議な人だなあというのが私の第一印象でした。

相手は私のことをどう見たかはわかりませんが、「まあ一度売ってみますか？」と言われ、私がキョトンとしているのを見て、「大阪支店ですが来る気はありますか、あれば1ヶ月の猶予を与えますので、引越して下さい」と強引な。「私は合格したということですか？」「まあそうですか、お兄さんの紹介もありま

すし、仕事が出来るかどうか来てから見てみましょう」と。なんとのおんきな、なんと豪快な答えで、私はこのゆう人は初めてでしたので驚いて支店長の顔を見ていましたが、ぴよこんと「おねがいします」と言

っていました。大袈裟に言うとな人生の大きな決断をこんな簡単に決めて良いのか、なにか魔法にかかったみたいに決めてしまいました。が、しばらくぼーとしていて「では、来月の10日に大阪支店に会社して下さい。朝8時30分からですから」の支店長の声に我に返り「はい」と返事をして面接は終わりました。

私の東京での生活が変わり、次は大阪にということになりました。なんと、これで良いのでしょうか？帰り道、まだ狐につままれたような顔をして私は歩いていたと思います。が、これで東京都ともおさらばか、それにしても、あの支店長さんはどんな人なのだろうか、魅力あふれる人には間違いないのですが人をひきつけるというか、包み込んでしまうというか、不思議な人でした。私は後々この人から絶

大な影響を受けて育つのですが、まだこの時はそれに気づいていませんでした。

私の人生は振り返ってみると、天津に生まれ、3歳で大阪に帰国、戦災で家を失い、京都の下鴨に家を買い、2年生の時まで裕福に育ちましたが、兄が予科練から帰ってきて家のすべてのお金を賭け事に使い、家も土地も取られ一家離散、おじいさんと兄と姉は関東に、私と母は上京区にあつた母子寮に入り、母は病院の付添で働き出しました。父は私が母のお腹の中にいる時、病気で天津で亡くなっていますので、母一人で私を育ててくれました。

私は貧乏はあまり感じず、母子寮には子供が60人（小学生）程いたので、毎日遊びで楽しい日々を過ごしていました。ただ母が泊まり込みなので夜は一人で寝るのが凄く寂し

く兄弟のある人はいいなあと、それ以外は遊び呆けていて、勉強は学校だけで、遊びの天才と言われるほど色々な遊びを自分たちで考えてしていましたね。例えば竹馬、チャンバラごっこ、ターザンごっこ、御所の周りをマラソン大会、夏は鴨川で朝から夕方まで水泳競技と、とにかく楽しい小学生時代を過ごしていました。

中学になり茨城県の水戸市に姉と兄貴達とおじいさんがいるので、そこに引っ越し、しかし兄は働かず、貧乏暮らしは続いていて、私は中学一年から三年まで新聞配達をして暮らしの足しにしていました。そうした苦勞、貧乏は今考えても何も苦しいことではなく、子供なりに楽しく過ごし、母だけがヨイトマケで働き苦勞していました。ですからあの美輪明宏の「ヨイトマケの歌」を聞くと今でも涙が出てきてしまいます。

そんなこんなで、過ごしてきた子供時代も私にとっては懐かしい思い出です。その後、高校は夜学、大学は中

退、初めての就職がキャバレーと、こう考えると結構波乱万丈の人生かなと思えますが、本人はいたってノー天気で過ごしています。

この波乱万丈の人生、東京を離れて大阪に、一流会社とはいえ、友達と別れ大阪になんてそうなるのか、どんな人生が待っているのか、又々大変な事が待っている大阪、この続きは次回で……

籠谷 弘



**歌声喫茶に参加して！**

私は子供の頃から歌が大好きでした。2年前に西院に転居し、近所の人とお友達になりたいたって「歌声サークル」がある事を知りました。早速入会させて頂き、歌う事の楽しさを改めて感じました。

楽しい！！子供の頃が蘇るような、そんな楽しさは久々でした。そんな時、コロナが流行りだして家に閉じ籠もりの日々：自分を振り返る日々でもありました。

早く皆様と一緒に懐かしい歌を思いつきり歌いたいと思います。

瀧安子

音楽喫茶に参加して演奏が始まると、その瞬間、流れるメロディに懐かしさが込み上げてきて、呼び起こされる思い出に包まれるひとときは心が和みます。いつも楽しい時間を過ごさせて頂きありがとうございます。

奥村文代

**歌声喫茶 10月の予定**

「西院」(第2、4木曜日)  
10月14日、28日  
「洛西」(第1、3木曜日)  
10月 7日、21日

**楽々亭第13回9月の予定**

9月の楽々亭は休会といたします。開催を楽しみにされていた方には申し訳ありません。

**歌声喫茶「西院」 8月9月の予定**

8月26日 9月9日、23日  
に開催を予定いたしておりました歌声喫茶を、緊急事態宣言の発出を受け、休会といたします。開催を楽しみにしておられた方には大変申し訳ありません。



**ともしび通信**

発行元：NPO 法人没イチの会・京都  
住所：京都市西京区大原野東境谷町1丁目1番地 4-701  
TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328  
MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。